

第2学年 道徳科（人権）学習指導案

1 主題 仲間と共に差別に立ち向かう

2 主題設定の理由（省略）

3 ねらい

人としての生き方そのものを奪う部落差別に憤りをもたせるとともに、差別に立ち向かい、自分の人生を切り開いた人々の生き方に学び、差別解消に向け仲間と共に主体的に行動しようとする態度を育てる。

4 指導計画

識字學級交流

- 各学級代表者の生徒と学年所属の教職員で識字学級に参加し識字学級が始まった理由や字を学ぶ学習を通して、識字学級についての理解を深めさせる。

文字を奪われることについて考えよう

文字を尊ぶることについて考えよう
映画「35年目のラブレター」
【総合的な学習の時間】2時間

- ・過酷な環境で育ち、文字を学べなかつた主人公の悲しみ
や文字を学ぶに至つた思いを理解させる。

文字が読めないとどうなる？

「文字が読めないとどうなる？～問診票にチャレンジ～」 【総合的な学習の時間】2時間

- ・非識字体験を通して文字を知らない不安感を体験し、単に不便であるだけでなく、人間らしく生きていく権利を奪うこと気に付かせ、文字を学ぶ機会を奪った部落差別の不合理さを理解させる。

識字学級について知ろう

| | |
|---------------|------------|
| DVD 「雨の指もじ」 | 【道徳科】 2 時間 |
| DVD 「識字がんばろな」 | 【道徳科】 1 時間 |

- ・部落差別の結果、文字の読み書きに不自由しながら生きる両親と、その事実を理解し寄り添う子どもの姿から、部落差別の不合理さに気付き、差別に対する憤りをもたせる。

人権コンサート

【學級活動】2 時間

- ・識字学級の共学者のコンサートや学級生の方の作文、識字学級と交流した生徒の感想などの資料を通して、文字を奪われた人々の苦しみと、文字を獲得していくことで得られた喜びについて理解させる。

仲間と共に差別に立ち向かう

「手紙一々やけがうつくしい」（わたしの願い）

【道德科】 3 時間（本時 3 / 3）

- ・学校に行くことができなかつた実態や、差別は文字のみならず幸せに豊かに生きていく権利までも奪ってしまうものであることを認識させる。また、仲間と共に同和問題について識字学級で学び、文字だけではなく、人間としての尊厳や生きる喜びを取り戻した北代さんの差別とたたかった生き方に触れ、自分の生活を振り返り差別を許さず生きていこうとする意欲を養う。

〈常時活動〉

| 明日への扉・とこチャレ | レクリエーション (毎週水曜日) |
|---|---|
| • 日頃から具体的な目標をもち、実現に向けて努力することで自信をもてるようとする。 | • レクリエーションを通して思いを伝え合う機会をもち、互いを尊重する集団をつくる。 |

5 本時の学習

(1) 目標

北代さんのたくましい生き方から、人として誇らしい生き方は何であるかを理解し、自ら差別の解決に向け、行動しようとする意欲を高める。

| | |
|-------------|--------------------|
| ねらいとする道徳的価値 | D - (22) よりよく生きる喜び |
|-------------|--------------------|

(2) 普遍的な学習のテーマ 基本的人権の尊重

個別人権課題名 同和問題

(3) 展開

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| 1 前時までの学習を振り返る。 | ○これまでの学習や手紙の内容を振り返る。 |
| 2 北代さんにとって、文字を覚えるということは何を意味しているかを考え、発表する。 | ○今まで奪われてきた人間らしく生きる権利を、文字を覚えることにより、取り戻し、差別に立ち向かった北代さんの強さに共感させる。 ① 字を覚えた後で見た夕やけを本当に美しく思えたのはなぜだろう。 |
| 3 なぜ北代さんは夕やけを本当に美しく思うようになったかを班で話し合い、発表する。 | ○すべての景色が新鮮で美しく見えるようになったことに気付かせる。 ○文字を取り戻すことで、生きていく喜びを手に入れた北代さんの気持ちに共感させる。 ③ |
| 4 北代さんの生き方から学んだことを、自分の生き方や生活にどのように生かしていくか考え、発表する。 | ○北代さんの差別に負けない生き方を、自分自身の生き方として、実践できるように考えさせる。 ○「自分がめざす誇らしい生き方」を、仲間と共に考えを共有し、発表できるように働きかける。 ○自分の生活の中でできることを一人一人に考えさせ、自分の生き方として発表させる。 ②③ |

(4) 評価

- ・差別に屈することなく、仲間と共に部落差別解消に向かうことが、人間として誇らしい生き方であることが理解できたか。 (知識的側面) ①
- ・自ら差別の解決に向け、行動していこうとする意欲が高まったか。 (価値的・態度的側面) ②
- ・友達の意見に共感しながら、自分の思いや考えを伝えることができたか。 (技能的側面) ③